

# 第 90 期中間株主通信

2015.4.1 ▶ 2015.9.30



証券コード：6863

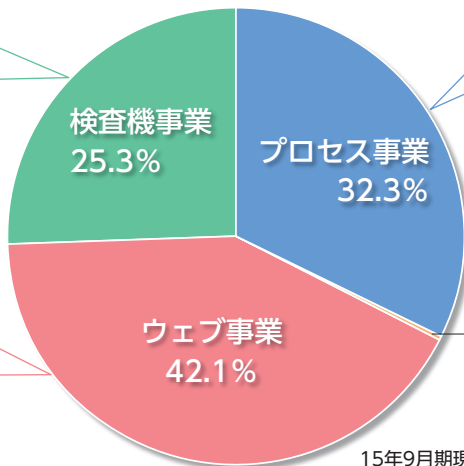
# 制御・検査装置のパイオニア

ニレコは「技術と信頼」の理念の下、様々な分野で貢献してまいります。

## 売上構成

当社が40年以上にわたり培ってきた画像処理技術をベースに、電子機器材料から農産物に至るまで幅広い製品を対象とした検査装置を取り扱う事業

製紙・印刷から電子機器材料まで広範な業種を対象に、シート状製品の位置制御装置などを取り扱う事業

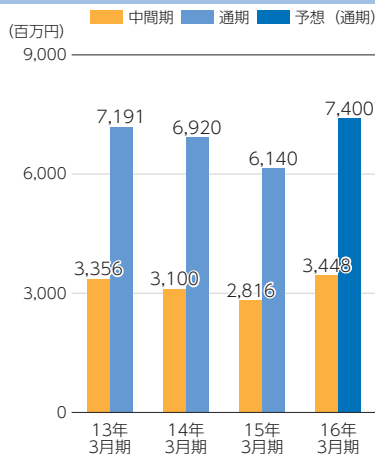


鉄鋼・非鉄金属や化学などの生産ラインを主な対象とする制御装置や計測装置を取り扱う事業

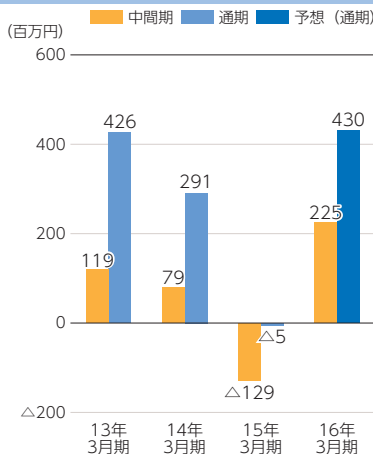
15年9月期現在

## 業績ハイライト

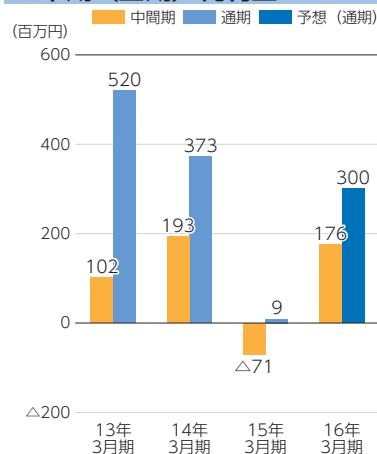
### 売上高



### 営業利益



### 親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益





代表取締役社長

久保田 寿治

**当上期は、期初に公表いたしました業績予想に対し、各セグメント共に売上高はほぼ予想通りとなり、営業利益につきましては、コスト削減に努めた結果、当初予想を上回る結果となりました。中間配当金は期初公表通り10円とさせていただきます。**

## ●当上期を振り返って

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2015年9月30日をもって終了しました第90期上期の業績結果をご報告申し上げます。

当期におけるわが国経済は、中国経済の減速を背景に世界経済の先行きに不透明感が広がる中、企業業績の改善を背景として緩やかな回復基調が続きました。

当社グループの主要取引先であります印刷業、紙加工業、電子部材メーカー、鉄鋼業及び化学工業などの設備投資に向けた動きも、業績改善に伴い徐々に広がりを見せ始めました。

このような情勢の下、当社はいかなる環境においても成長できる経営を目指し、付加価値の高い製品、サービスの提供を強化するとともに全社的なコスト削減に努めてまいりました。その結果、売上高3,448百万円（前年同期比122.4%）、営業利益225百万円（前年同期は営業損失129百万円）、経常利益251百万円（前年同期は経常損失105百万円）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は176百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失71百万円）となりました。

なお、中間配当金につきましては、1株あたり10円とさせていただきます。

## ●当下期の見通しについて

当下期の見通しといたしましては、わが国経済においては緩やかな回復基調が続くと想定しておりますが、米国の金利動向、中国経済の減速などもあり、世界経済の先行きに不透明な要因が存在していることから、設備投資需要につきましても決して楽観視できないものと考えております。

このような状況において、当社は各事業において付加価値の向上した新製品を投入し拡販に注力していくとともに、引き続き全社的なコスト削減を進めることで、企業価値の向上に取り組んでいきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

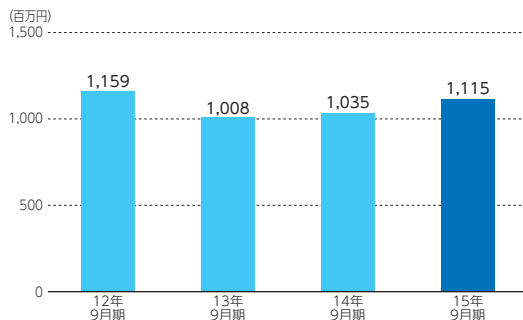
### 2016年3月期連結業績予想

(単位：百万円)

	金額	前期比
売上高	7,400	+20.5%
営業利益	430	-%
経常利益	460	+590.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	300	-%

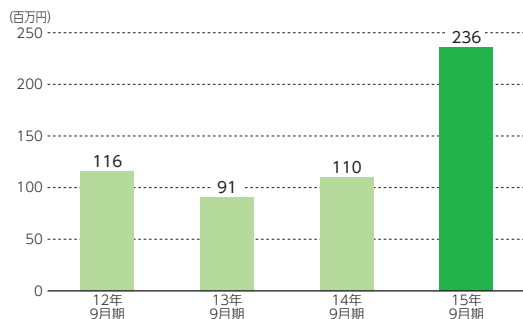
## プロセス事業

### ■ 売上高



7.7%

### ■ セグメント利益



114.3%

当事業の主要取引先であります国内鉄鋼メーカーは、戦略的観点から海外新規設備投資に注力する一方で、国内設備に関しては老朽設備の修理・更新や生産性改善を目的とした投資を積極的に進めました。また、海外鉄鋼メーカーは、新興国を中心とした高級鋼材メーカーで新規設備投資に向けた動きがありました。このような状況の下、当社グループは、国内鉄鋼メーカーに対しては、老朽設備の修理・更新、部品販売といったメンテナンス需要の取り込みに注力するとともに、鉄鋼製品の品質と生産効率向上につながる新製品群の積極提案に努めました。また、海外鉄鋼メーカーに対しては、国内での長年にわたる実績を高級鋼材メーカーに向けてアピールすることで新規顧客の開拓を進めました。

その結果、当事業の売上高は1,115百万円（前年同期比+7.7%）、セグメント利益は236百万円（前年同期比+114.3%）となりました。

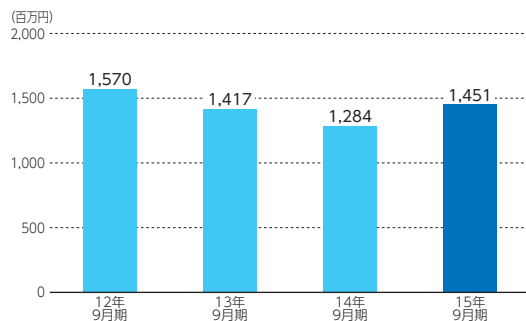
### 下期の展望

当事業の主要取引先であります鉄鋼業界は、国内については上期から徐々に広がりを見せ始めた設備投資需要が引き続き堅調に推移し、海外については、鉄鋼製品の供給過剰により新規設備投資の機会は限られたものになると想定しております。このような状況の下、

国内においては、鉄鋼製品の品質と生産効率の向上に貢献できるよう充実した製品ラインナップを軸に、引き続き顧客ニーズを汲み取り、積極的な提案をしてまいります。また、海外においては、ASEAN諸国を中心に国内での実績をアピールしながら顧客開拓を進めてまいります。

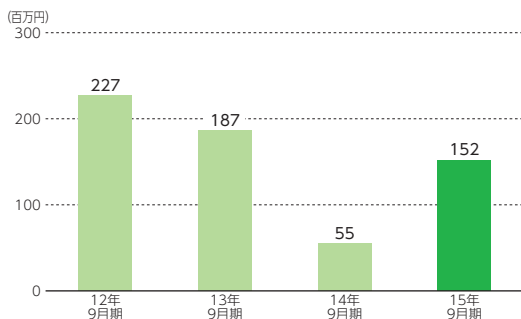
# ウェブ事業

## ■ 売上高



13.0%

## ■ セグメント利益



175.2%

当事業の主要取引先であります高機能フィルム業界は、スマートフォンやタブレット端末向け電子部材の生産設備を中心に設備投資に向けた動きが徐々に表れてきました。もう一方の主要取引先であります印刷業界は、商業印刷市場が引き続き厳しい状況で推移しました。このような状況の下、当社グループは、高機能フィルム業界並びに印刷業界の中でも需要の安定した包装資材や特殊印刷市場に向けて耳端位置制御装置や張力制御装置を中心とした営業活動を展開しました。

その結果、当事業の売上高は1,451百万円（前年同期比+13.0%）、セグメント利益は152百万円（前年同期比+175.2%）となりました。

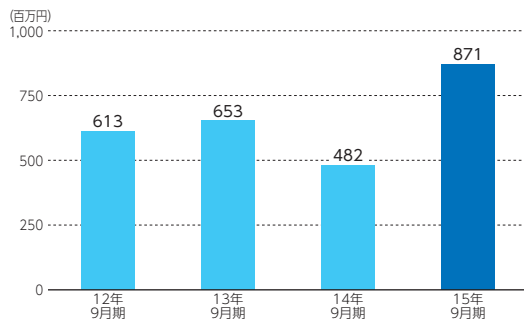
## 下期の展望

引き続き堅調な設備投資需要が期待される高機能フィルム市場や包装資材市場に向けて、順次投入を進めている新製品を拡販していくとともに、部材の標準化、モジュール化により生産コストの低減と生産効率

の向上を図ってまいります。また、海外での販売拡大を目指し、中国及び台湾の子会社にて機能を絞った製品の現地生産、販売体制の強化を進めてまいります。

## 検査機事業

## ■ 売上高



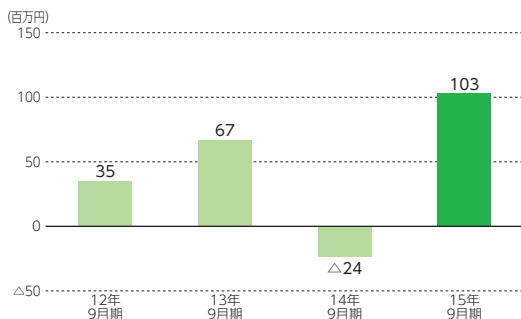
80.6%

当事業の主要製品であります無地検査装置は、多様な品質検査ニーズへの対応及び対象市場の拡大を狙い製品ラインナップを拡充した結果、スマートフォンやタブレット端末向けを始めとした電子部材の堅調な需要を背景に前年同期の売上高を上回りました。

もう一つの主要製品であります選果装置は、老朽設備の更新を求める顧客からの受注を着実に捉えた結果、農業関連予算の執行が進まず低調であった前年同期の売上高を大幅に上回りました。

その結果、当事業の売上高は871百万円（前年同期比+80.6%）、セグメント利益は103百万円（前年同期はセグメント損失24百万円）となりました。

## ■ セグメント利益



## 下期の展望

当事業の主要製品であります無地検査装置は、主力の中小型液晶パネル向け高機能フィルムに加え、堅調な需要の続く電子部材向けシートも対象に、顧客ニーズに合わせた製品ラインナップ展開によりシェアの拡大を目指してまいります。

もう一つの主要製品であります選果装置は、老朽設備の更新需要を確実に捉えて受注を増やすとともに、選果技術を応用し、高まる食の安全志向に照準を合わせた新製品の開発を進めてまいります。また、軟包装を対象とした製袋検査装置の拡販を目指してまいります。

上期に発売した新製品の一部をご紹介します。

### BCON5000

紙の印刷物や食品包装などあらゆる印刷物の印刷面の欠陥を検知し、欠陥箇所を識別する印刷品質検査装置の新製品です。欠陥箇所の検知能力を向上させるとともに、マルチタッチ操作画面を採用したことにより、タブレット感覚での操作を可能にしました。



### Mujiken+ LT

高機能フィルムや紙、不織布などといったウェブ表面の汚れ、異物、キズ、しわなど製品の品質に関わる欠陥を高速で検査し、不良品の流出を未然に防ぐMujiken+（ムジケンプラス）シリーズ。このLTは、Mujiken+の高速で高精度な検査をそのままに、構成を標準化することでよりコンパクトな製品となっております。

# 連結財務諸表

## 第2四半期連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科目	期別	前期末	当第2四半期末
<b>(資産の部)</b>			
流動資産		9,235	9,461
固定資産		3,873	3,775
有形固定資産		2,258	2,207
無形固定資産		118	102
投資その他の資産		1,496	1,465
<b>①▶資産合計</b>		<b>13,108</b>	<b>13,237</b>
<b>(負債の部)</b>			
流動負債		1,203	1,314
固定負債		704	600
<b>②▶負債合計</b>		<b>1,908</b>	<b>1,914</b>
<b>(純資産の部)</b>			
株主資本		10,926	11,048
資本金		3,072	3,072
資本剰余金		4,124	4,124
利益剰余金		5,055	5,157
自己株式		△1,326	△1,306
その他の包括利益累計額		159	158
新株予約権		30	28
非支配株主持分		84	87
<b>③▶純資産合計</b>		<b>11,199</b>	<b>11,322</b>
<b>負債純資産合計</b>		<b>13,108</b>	<b>13,237</b>

## Check Point

### ① 資産

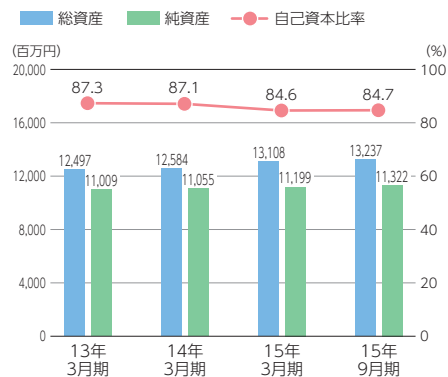
前期末に比べて129百万円増加し13,237百万円となりました。これは主に受取手形及び売掛金の減少283百万円があったものの、棚卸資産の増加385百万円などがあったことによりです。

### ② 負債

前期末に比べて6百万円増加し1,914百万円となりました。これは主に長期借入金の減少75百万円などがあったものの、支払手形及び買掛金の増加61百万円、未払費用の増加41百万円があったことによりです。

### ③ 純資産

前期末に比べて122百万円増加し、11,322百万円となりました。これは主に配当による利益剰余金の減少73百万円などがあったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益176百万円による利益剰余金の増加があったことによりです。





## 第2四半期連結損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	期別	前第2四半期(累計)	当第2四半期(累計)
売上高		2,816	3,448
売上原価		1,937	2,202
売上総利益		878	1,245
販売費及び一般管理費		1,008	1,020
営業利益又は営業損失(△)		△129	225
営業外収益		31	46
営業外費用		7	20
経常利益又は経常損失(△)		△105	251
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)		△105	251
法人税等		△34	72
四半期純利益又は四半期純損失(△)		△70	178
非支配株主に帰属する四半期純利益		0	2
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)		△71	176

## 第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	期別	前第2四半期(累計)	当第2四半期(累計)
④ 営業活動によるキャッシュ・フロー		10	291
⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー		△22	△69
⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー		△285	△153
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)		△309	76
現金及び現金同等物の期首残高		4,643	4,074
現金及び現金同等物の四半期末残高		4,334	4,151

## Check Point

### ④ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は291百万円(前年同期比281百万円の増加)となりました。これは主なフローアウトに棚卸資産の増加379百万円などがあったものの、主なフローインとして売上債権の減少287百万円、税金等調整前四半期純利益251百万円、減価償却費95百万円があったことによりです。

### ⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は69百万円(前年同期比47百万円の増加)となりました。これは主に貸付金の回収による収入14百万円があったものの、投資有価証券の取得による支出61百万円、固定資産の取得による支出51百万円があったことによりです。

### ⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は153百万円(前年同期比132百万円の減少)となりました。これは主に長期借入金の返済による支出75百万円、配当金の支払73百万円があったことによりです。

## プロセス事業 ～電磁波炉内CPCセンサ～

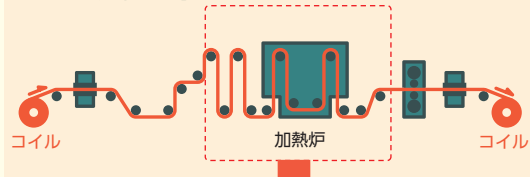
鉄鋼・非鉄金属業では完成品に至るまでに多岐にわたる生産工程がありますが、とりわけ自動車用薄板鋼板を生産するめっき亜鉛ラインなどの加熱炉において、鋼板の耳端を揃える位置制御は重要です。位置を制御しないために、蛇行が大きくなったりすると製品の価値を失うだけでなく、鋼板が設備の内側から損傷してしまう危険もあります。図1にあるとおり、密閉されている加熱炉は目視で内部の鋼板の位置を確認することができないため、加熱炉内の鋼板の搬送位置を知ることが必要となります。

このCPCセンサは、図2にあるとおり、炉壁内部に埋設したアンテナからマイクロ波と呼ばれる非常に高い周波数の電磁波を鋼板へ放射し、反射して戻ってくるまでの時間を計測することで鋼板の位置を瞬時にかつ正確に測定する装置です。当社は長年の研究の結果、マイクロ波の僅かな時間変化を高精度で計測する技術を確認しました。加熱炉の内部は1000℃近くの高温になりますが、このような過酷な環境下でも長期に渡り安定かつ高精度な鋼板位置の計測が可能で、しかもメンテナンスを必要としないという特徴を持っており、現在、多くの製鉄所でご利用いただいております。

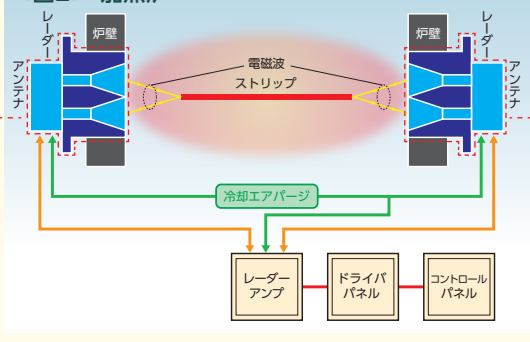
### 鉄鋼製品の生産工程

製鉄 ▶ 製鋼 ▶ 圧延 ▶ 表面処理

<図1> 連続焼鈍ライン



<図2> 加熱炉



# 株式の状況

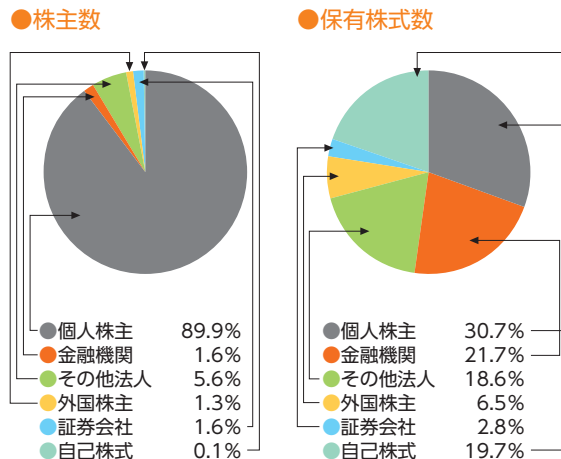
## 株式の状況 (2015年9月30日現在)

発行可能株式数： 39,400,000株  
 発行済株式の総数： 9,205,249株  
 株主数： 879名  
 大株主：

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託新日鐵住金退職金口再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社	790	10.7
ニレコ取引先持株会	488	6.6
極東貿易株式会社	469	6.4
株式会社東京都民銀行	364	4.9
CGML PB CLIENT ACCOUNT/COLLATERAL	302	4.1
クレディ・スイス証券株式会社	238	3.2
浅井美博	238	3.2
住友金属鉱山株式会社	231	3.1
UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT	194	2.6
ニレコ従業員持株会	184	2.5

(注) 上記以外に、当社は自己株式1,813,675株を保有しております。なお、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

## 所有者別株式分布状況



# 会社情報

## 会社の概要 (2015年9月30日現在)

商号：株式会社ニレコ  
 英文商号：NIRECO CORPORATION  
 本店所在地：東京都八王子市石川町2951番地4  
 設立：昭和25年11月  
 資本金：3,072百万円

## 役員 (2015年9月30日現在)

会社における地位	氏名	担当又は主な職業
代表取締役社長	久保田 寿 治	CEO
取締役 ※1	河 西 辰 雄	生産管理部門長 兼ミヨタ精密代表取締役社長
取締役 ※1	碓 光 司	管理部門長
取締役	川 路 憲 一	相談役
取締役 ※2	中 野 厚 徳	
常勤監査役	田 邊 寛 一 郎	
監査役 ※2	林 光 彦	
監査役 ※2	古 君 修	

※1 執行役員を兼任しております。

※2 会社法に定める社外取締役及び社外監査役です。

### 執行役員

藤原 利之 尼利可自動制御機器（上海）有限公司董事長兼仁力克股份有限公司董事長  
 小林 正明 検査機事業部長  
 三浦 誠 プロセス事業部長  
 大澤 祐二 ウェブ事業部長

## 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会  
開催時期 6月下旬

定時株主総会議決権  
行使株主確定日 3月31日

期末配当金受領  
株主確定日 3月31日

中間配当金受領  
株主確定日 9月30日

法定公告は次のURLに掲載しております。  
<http://www.nireco.jp/ir/notice/index.html>

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

特別口座の  
口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

- 同事務取扱場所  
〒100-8212  
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
- 郵便物送付及び電話照会先  
〒137-8081  
東京都江東区東砂七丁目10番11号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)

## 株主の皆様の声をお聞かせください


当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、  
アクセスコード入力後に表示される  
アンケートサイトにてご回答ください。  
所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード 6863

いいかぶ

検索

 空メールによりURL自動返信  
kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)  
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に  
到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から  
抽選で薄謝(図書カード500円)  
を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の  
提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。  
(株式会社 a2mediaについての詳細  
<http://www.a2media.co.jp>)

※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただき、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日10:00~17:30)  
[e-株主リサーチ事務局] MAIL:info@e-kabunushi.com

## 株式会社ニレコ

〒192-8522 東京都八王子市石川町2951番地4  
電話 042-642-3111 (代表)

UD  
FONT

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

